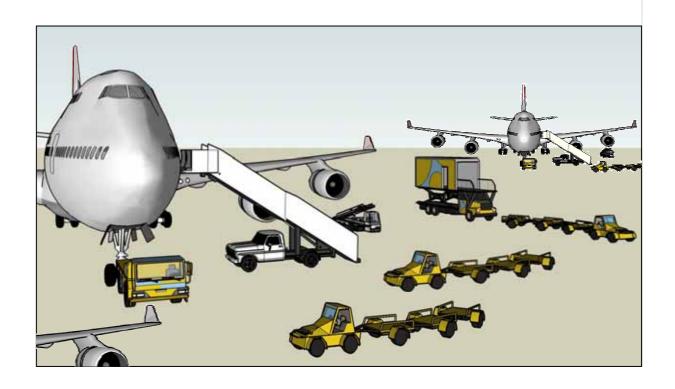


(別紙2)

空港制限区域内における事故の撲滅に向けて

~ みんなで防ぐ空港制限区域内事故~



国土交通省 空港制限区域事故防止対策検討会

安全啓発資料発行にあたって

空港制限区域内(以下、「制限区域」という。)において、地上作業員の作業中の死傷事故や、航空機・空港施設の破損・損壊等の事故が、近年増加する傾向にあります。

制限区域内では、航空機や地上車両が混在し、それぞれ多種多様な動きをしています。その中での地上作業員の業務においては、専門的な知識と、慎重な動作が要求されています。

過去の事故事例を調査・分析しますと、ちょっとした注意を払っていれば 防ぐことができたケースや、大事故にはならずに済んだ事例も数多〈見受け られます。

本冊子は、制限区域内で発生した数多くの事故を教訓として、同種事故の再発防止と安全啓発のための資料として用意したものです。

制限区域内での事故防止のために、本冊子を活用して頂ければ幸いです。

平成21年7月23日

国土交通省 空港制限区域内事故防止対策検討会

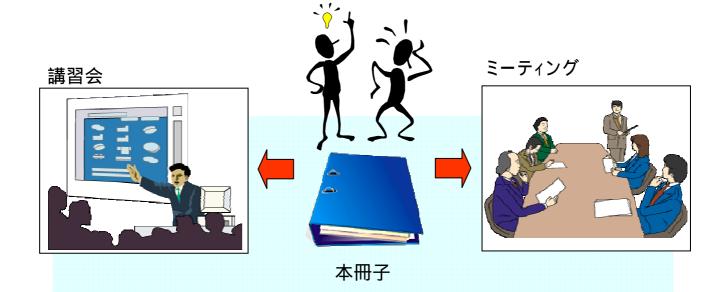


本冊子の活用方法

本冊子の作成に当たり、全国の空港において2002年1月~2008年9月に発生した事故(1,211件)を対象として、発生原因、発生場所、発生時間帯、等のさまざまな側面から調査分析を行いました。

特に地上作業員が重傷を負ったり、航空機が損壊したといった重大な事案(23件)については、アンケートやヒアリングを行い、事故がどのような要因で発生したのか、再発を防止するためにどのような対策を講じたのか等について掘り下げ、ケーススタディ形式でまとめました。

各空港の空港管理者や航空会社等におかれましては、本冊子を安全に 関する講習会やミーティング等で積極的に活用して頂きたいと願っておりま す。



同業他社や他業種での事故情報を共有することにより、 新たな事故防止のアイデア等に気付くことを期待



事業者の取組み事例に学ぶ事故防止

空港内事業者にヒアリング等を行い、これまで取り組みが行われた対策の事例について紹介します。今後の事故防止対策を検討する際の参考にしてみてください。

教育の実施

- 1.安全教育に特化した組織を発足し、経験年数別の教育を実施
- 2. 階層別教育(責任者層、若年層等)、事例研究の実施
- 3.発生事例に基づ〈KYT(危険予知トレーニング)の実施

各種情報の共有等

- 1.空港内事業所で構成される協議会において、空港施設の改善点を収 集し不安全要素を排除
- 2.グループウェアを利用した事故情報の共有
- 3.作業時における基本行動を取りまとめた事例集から任意の行動を選びミーティングにおいて再確認を行う。
- 4. 各職員が持っている業務の / ウハウを取りまとめた資料集を社内で共有

その他

- 1. 職員の経験を充実させるため、人事異動により業種、勤務地を変更 (リフレッシュによるマンネリ防止効果を期待)
- 2.教育、事例研究の際に得られた改善策を作業手順書に反映
- 3.ヒヤリハットについては、電子的な報告から手書きによる報告に変更した。(事象の報告をしっかりと認識するために)

ある事業所の事例

事故防止に役立てるためにと長年に亘り収集したヒヤリハット情報を分析してみたところ、ベテランと呼ばれる中堅職員もヒヤリハット事案を起こしがちであることが分かったようです。

そこで、原因を調べてみると色々な要因が絡み合ってヒヤリハット事案が発生している ものの、なかでも「仕事に対する慣れ」や「手順省略」といったことが意外にも多かったよ うでした。

このため、年齢別、階層別の職員を区分して講習会を開催したり、業務規程の再確認 や後輩への安全姿勢の垂範について啓発・周知を図るとともに、中堅職員を業務実施 を指導するパトロール役に起用するなどの対策を講じたとのことです。

また、この事業者は、エラーは条件さえ揃えば誰でも原因者になりえること、それはベテランであっても例外ではないということを改めて認識したようです。



事故事例に学ぶ事故防止

みなさんの身近でも起こりうる、ヒューマンエラーに関連して発生した実際 の事故事例を紹介します。

- 事故はどのようにして発生したのでしょうか?
- ・この事故から何が学び取れるでしょうか?
- ・事故の再発を防ぐためには、どのような具体策を講じればよいでしょうか?
- ・基本動作は何故重要なのでしょうか?

人間はエラーを起こす生き物です。自分は大丈夫と思っているといつか事故につながるかもしれません。あなたのグループでも話し合ってみましょう。

なお、ここで紹介した事故事例の推定原因と対策については、この資料の 最後に掲載しています。

